

(B)

渡船御尋ニ付奉ニ書上候

当村渡船之儀者、中山道鴻巣宿より行田町通り、上州邑樂郡同新田郡江往来之人馬、前々迄赤岩村・葛和田村両村より、日々壱人ツゝ船頭武人差出シ、渡船仕來り申候、御武家様方・御出家方ハ無錢而相渡シ、百姓・商人も船賃壱人ニ付拾六文ツゝ、「馬壱疋ニ付廿四文ツゝ取レ之、近村之者ともハ、粗穀少々ツゝ」請取之、渡船仕候、右船御役永・御運上等差上候義無レ之候、然ル処、文化五辰年十一月、川船方御役人様方「御出役之節、右渡船書出シ候処、鑑札武枚被下置候、」年々川船御役所ニ而御書替被仰付候、右始末今般御尋ニ付奉ニ書上候処、少も相違無ニ御座候

一右馬渡船壱艘 長武丈七尺八寸 但、馬三疋立

一步行渡船壱艘 橫七尺武寸 長武丈武寸

横三尺七寸

右船丈尺寸之義、奉ニ書上候処、相違無ニ御座候

一右船新規造建仕候節ハ、村方一統ニ而造建仕候、「渡守給金之義者、壱ヶ年ニ金五両ツゝ、壱人江差出シ」申候而、渡船仕来申候、尤右渡船場之義者、当村・赤岩村両村持ニ而、船之義も赤岩ニも当村通り鑑札武枚有レ之候、都而渡船取計方之義者、「両村同様ニ御座候、右者御尋ニ付、書面之通」奉ニ書上候処、相違無ニ御座候、以上

武州蘆羅郡

葛和田村

名主

仙右衛門

組頭甚兵衛

百姓代

清水御出役

文政八酉年九月

加藤孫兵衛様